

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果と総括

今年度、文部科学省は4月18日(火)全国一斉に「学力・学習状況調査」を実施しました。教科に関する内容については今年度の結果を分析し、学習状況調査については、昨年度や今年度の生駒市内、奈良県、全国の中学校の数値とも比較しながら、本校の今年度の傾向を考察しています。

【教科に関する調査結果と概要】

国語・数学・英語のそれぞれの教科の正答率は全国・奈良県平均と比較してもほぼ近い値を示しており、水準的な学力であるといえます。全国的な分析結果から、国語は、聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできているが、情報と情報との関係について理解することに課題があり、数学は、基礎的・基本的な計算技能は身につけていると考えられているが、問題解決の過程や結果を振り返って考察することに課題があり、英語は、日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることはできているが、日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすることに課題があると指摘されています。本校についても、基礎的・基本的な学力の定着を大切にしながら、本校の課題を踏まえ「生きていく学力」として、身につけた知識・技能を生かして ICT を活用して引き出した情報を活用しながら、自分の考えを構成し、発信する力を高める指導の充実を図っていきたいと考えています。

【国語】

全体的に正答率の割合は県・全国と大きな差はなく同程度の結果となっています。「書く」の問題では国・県と比較しても正答率は高く平均を上回り、逆に語彙に関する問題では国・県と比較して平均を下回る結果となりました。また、無回答率が平均よりも低くなっており、時間のかかる問題を諦める傾向がみられます。全国的に課題とされる「書くこと」については力がついてきており、内容を読み取り自分の考えをまとめることができていると考えられます。その反面語彙力の面での課題があるので、語彙力を伸ばすことで難解な問題であっても理解でき、無回答率が減少すると考えます。

【数学】

国・県と比較してもすべてにおいて正答率は高いですが、特に、「数と式」と「図形」では特に、顕著に現れています。また、「数と式」「関数」の領域については、知識・技能を問う問題に対しての正答率が高い反面、「図形」の領域や「データの活用」の領域については、思考・判断・表現を問う問題に対しての正答率が低くなっていることから、問題文から必要な情報を読み取り、答えを求める力や説明する力に課題が見られると考えられます。普段の授業を工夫し、知識・技能を養うだけでなく、事象を数学的に捉えることや成り立つことから数学的に説明する力を養うことが必要であると考えます。

【英語】

「書くこと」について、文章や問題の意味は理解できているが、それらを踏まえ自分の考えや理由を表現したりすることに課題があるという結果となったため、以下のような活動を授業の中で行うことを考えています。具体的には「書くこと」について、自分が守りたい絶滅危惧種の動物について、ICTを活用し、どうすれば動物を守ることができるのかを考え、英語で記事を作成したり、現代の社会問題である電子機器の使用問題について、制限する法律について、賛成か反対かの自身の意見を英語で表現したりすることで力をつけていきたいと考えています。さらに身近な社会問題に関する文章を読み、概要をとらえ、自分の考えや感じたことを英語で表現し合うことによって、「話すこと」と「聞くこと」の力の向上につなげていきます。

【生徒質問紙に関する調査結果と考察】 抜粋

基本的な生活習慣について

毎日、同じ時刻に起きている・寝ているや、朝食を毎日食べていると回答している生徒の割合は昨年度より下がっているもののいずれも90%を超えており、全国・県・市と比較しても高い値になっています。このことから、本校では概ね基本的な生活習慣が身についていると思われます。ただ、毎日同じぐらいの時刻に寝ている生徒の割合は、80%を切っており、起床・朝食の割合と比較して12%以上の差があることから、全国的に見ても生徒たちの生活の中で夜同じ時刻に寝ることが難しい状況が続いています。睡眠不足や体調不良につながる心配もあるので、できるだけ生活リズムを整えることが必要であると考えます。

自己肯定感・自己有用感について

自分にはよいところがあると思っている生徒の割合は昨年度よりも高くなっています。全国・県と比較しても高い割合ではあるものの、20%弱の生徒が自分のよいところを認められていない現状にあります。このことから、道徳や教科授業だけでなく、普段からありのままの自分を大切にすることや自分らしさを認めることの大切さについて考える時間を持つことが必要です。将来の自分をイメージし、どんな大人になりたいかを考え、自分に必要な力を付けるためにも、主体的に学ぶ姿勢を高める取組をすすめることで、自分の良さを認めることができるようになることが大切であると考えます。

人権意識等について

いじめはどんな理由があってもいけないと考えている生徒の割合は98%を超えており全国・県・市と比較しても高い割合を示している反面、人が困っているときに助けている生徒の割合は全国・県・市と比較して低くなっています。また、困ったことがあったときに相談できる先生や大人がいると答えた生徒の割合も低いことから、困っている人を助けることができる心に余裕がある生徒を育てることと、生徒自身が安心してSOSを発信することができ、その発信をしっかりと受け止められる学校体制の構築が急務であると考えます。

学校生活等について

学校に行くことが楽しいと考えている生徒の割合は県・全国と比較しても高いですが、友人関係に満足しているや普段の生活の中で幸せな気持ちになることがあると回答している生徒の割合は生駒市・県・全国と比べても低くなっています。友人関係や普段の生活での幸福度を高めることで自己有用感が高まり、充実した学校生活を送ることにつながるので、普段の学校生活や二者懇談などで生徒のようすを見守りながら、さまざまな学びの中から生きていく力を高めることができるよう取り組んでいきます。

主体的・対話的で深い学びの視点から

積極的に学習に取り組む姿勢は、市・県と比較すると高く、全国と同程度の割合を示しており、主体的に学習しようという姿勢は高まっています。自分の考えを深めたり、広げたり、わからなかったことを自分で見直し、次につなげ、他の学習で生かすことが自らの学びの力や、これからの社会で求められる生きる力を高めることにつながるので、さらに積極的に伸ばしていきたいと考えます。

地域との関わりについて

コミュニティー・スクールを進めていく中で、学校と地域が連携していくことは大切ですが、地域の方に学校にきていただいて学校の様子を知っていただくだけではなく、地域で活躍できる生徒を育成することが重要になってきます。そのきっかけとして中学生が地域の行事に関心を持ち、参加することは大切です。市・県・全国と比較しても地域行事への参加している生徒や、地域や社会を何かしたいと考えている生徒の割合は高いので、その思いを実現できるようサポートしていきます。